

小学校中学年算数科における
確認問題を取り入れた授業改善
～子どもの笑顔あふれる授業づくり～

学級の児童たちの実態



- 元気いっぱい。
 - 休み時間はほとんどの児童が外に行って遊ぶ。
 - 人なつっこい。
 - お手伝いなどをして人に感謝されることが好き。
-
- 学級全体として話を聞いていなかったり, 質問したりすることが多い。
 - 細かいところを気にしすぎる。
 - トラブルが多く, 休み時間のたびに喧嘩がある。

担任の思い

授業について

授業で理解できる子と、理解が難しい子のはっきりしているなあ。どうしたらそろえられるかなあ。

授業時間内に問題が解き終わらない。休み時間にまで頑張っ解いているけど……。



日常生活について

たくましい児童に育ってほしい。

自分たちで考えて行動できるようになってほしい。

授業中にかかえる課題

授業が始まる前や授業中などで
思っていることをすぐに言葉にする。
そして周りの児童がそれにつられて
しまう。

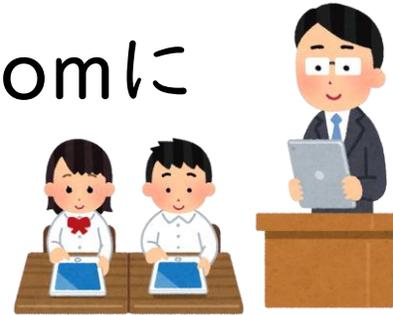


のんびり屋さんが出て足並みが
揃わない。ほかの児童ができてい
ても活動がゆっくりで1人だけで
きていないことが多い。



コンサル前の担任の授業スタイル

- 教科書の大事な部分を切り取り, MetaMoji Classroomに貼付けて学習効果を高める。



- できるだけ丁寧に, 教科書に沿って授業を行う。

- 問題を解くときに困らないように, 説明を詳しくする。



- とにかく時間内に教科書の内容を終わらせる。



第1回目の授業

やっぱり授業は丁寧に。
ここまで視覚的支援を
取り入れたらみんな
分かってくれるだろう。



反応は薄いけど
聞いてくれてそう

アドバイザーからの助言①

- 最後から2番目の問題は19人中18人できていた。
- しかし、最後の問題は約半数の児童しかできなかった。



ジャンプ問題に
注意!

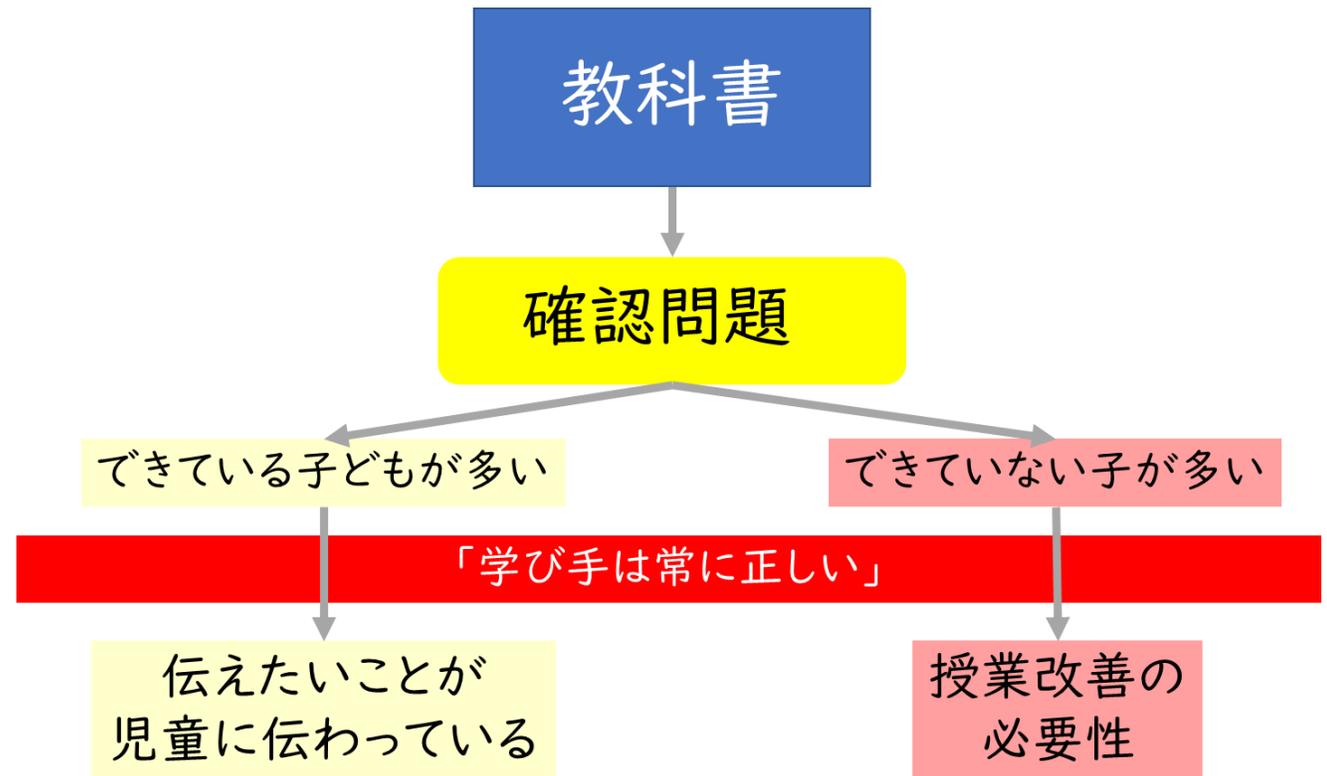
- 教科書の最後の問題は、本時で習う以外の方が必要な問題であることが多い。
- ここでつまづいて算数が「難しい」「分からない」で終わっているケースも多い。
- 事前の手立てが必要。

アドバイザーからの助言②

- 児童が1時間の授業で学ぶべきことを学べたかどうか確認しよう。



確認問題を実施しましょう。



■ 確認問題の実施

<確認問題とは>

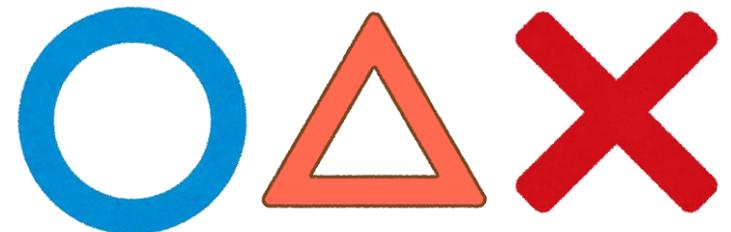
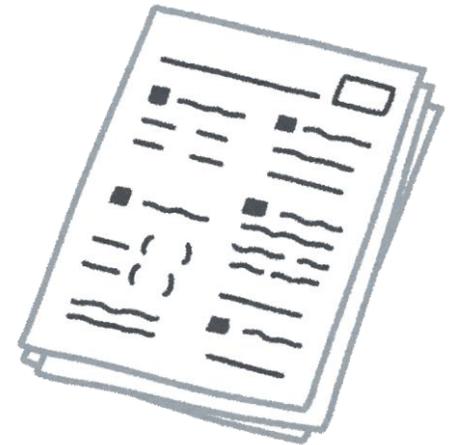
- ・1時間の授業で見童が学ぶべきものが本当に学ぶことができたか評価する問題

<内容>

- ・授業終盤で行う任意の問題を抽出する。
- ・教科書の問題やワークの問題など1~数問設定する。
- ・見童には伝えない。

<評価>

- ・・・一人でできた。
- △・・・間違えたが、訂正し正答できた。
- ×・・・最後まで正答することができなかった。



■ ジャンプ問題への配慮

- 最後の問題に取り組む前にオリジナル問題を実施する。
- 授業内に取り組む問題を精選する。

最後の問題ができなかった時

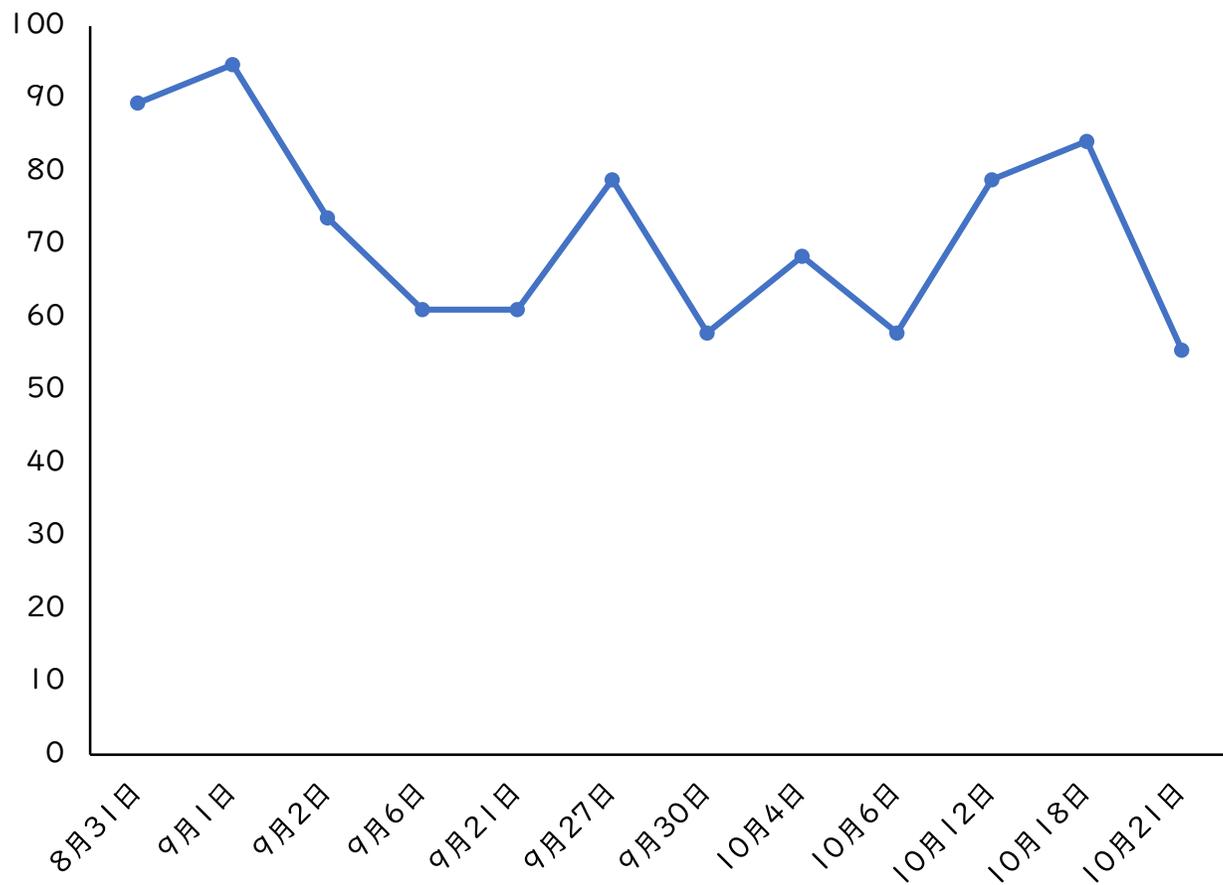


最後の問題ができた時



成果と課題

○の割合(%)



■ 成果

- 確認問題を行うことで、児童が理解できているのか客観的に評価できるようになった。

□ 課題

- 確認問題で○の児童がなかなか増えない。



介入

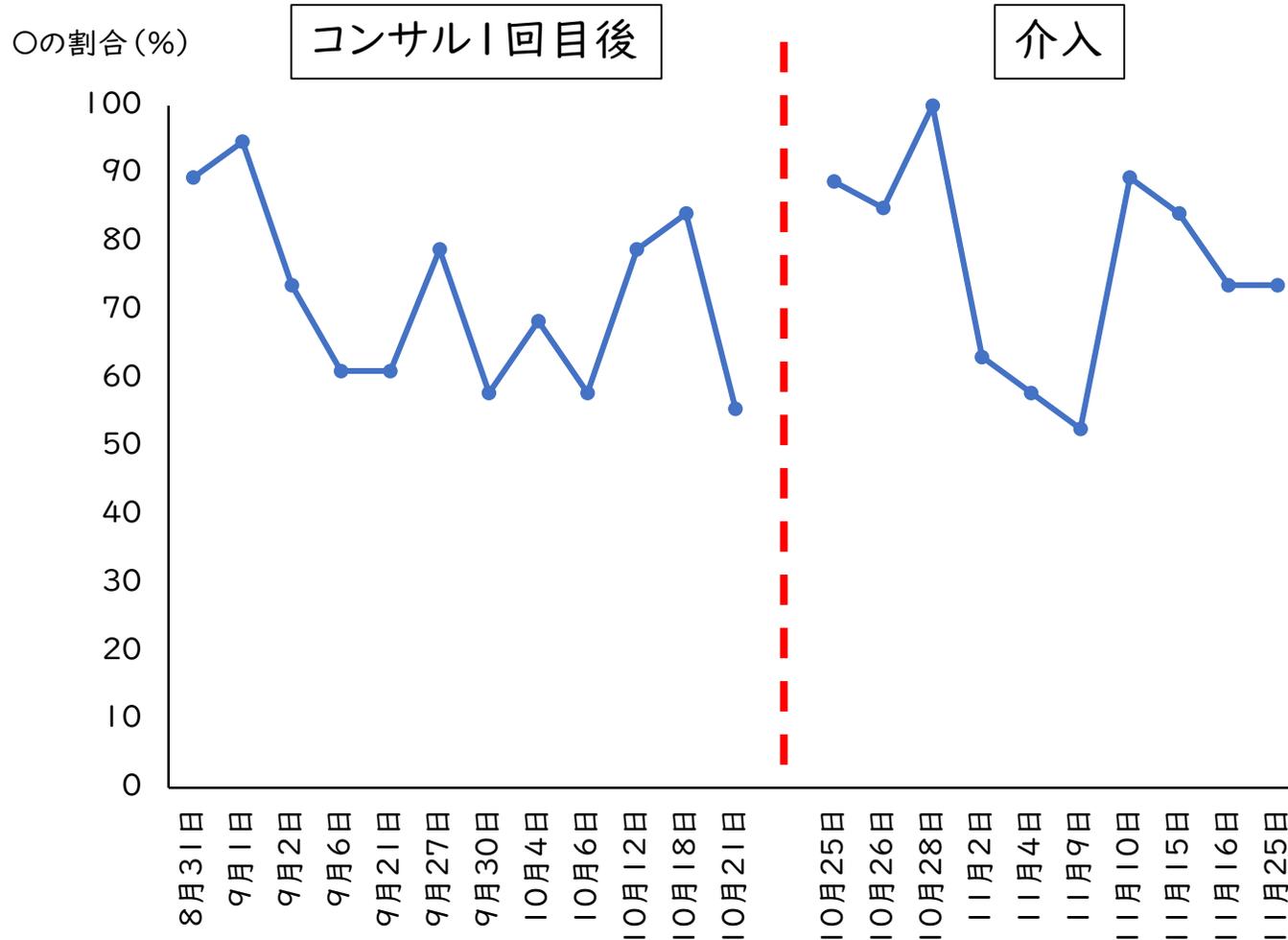
- 介入①:きちんとできたことに反応することや称賛することを意識し始めた。



- 介入②:「できた」充実感を感じられるように教科書の問題を少し変えて難易度を下げた。



成果と課題



■ 成果

- ○の児童が多くなった時もあった。

□ 課題

- 確認問題で○の児童が安定しない。

アドバイザーからの助言③

- ゴールから逆算して手立てを考える。



確認問題で
全員が○になる
ようにする手立て
を考えよう。

- ①練習問題の数・時間を確保する。
- ②問題を正しく解けるように必要に応じてヒントを出す。
- ③正しく解けたことに対して、ポジティブなフィードバックを行う。

アドバイザーからの助言④

- 「同じです!」で安心しない。本当に同じなのか動かして確認。



児童を
動かして確認
しよう。

<学級の特徴>

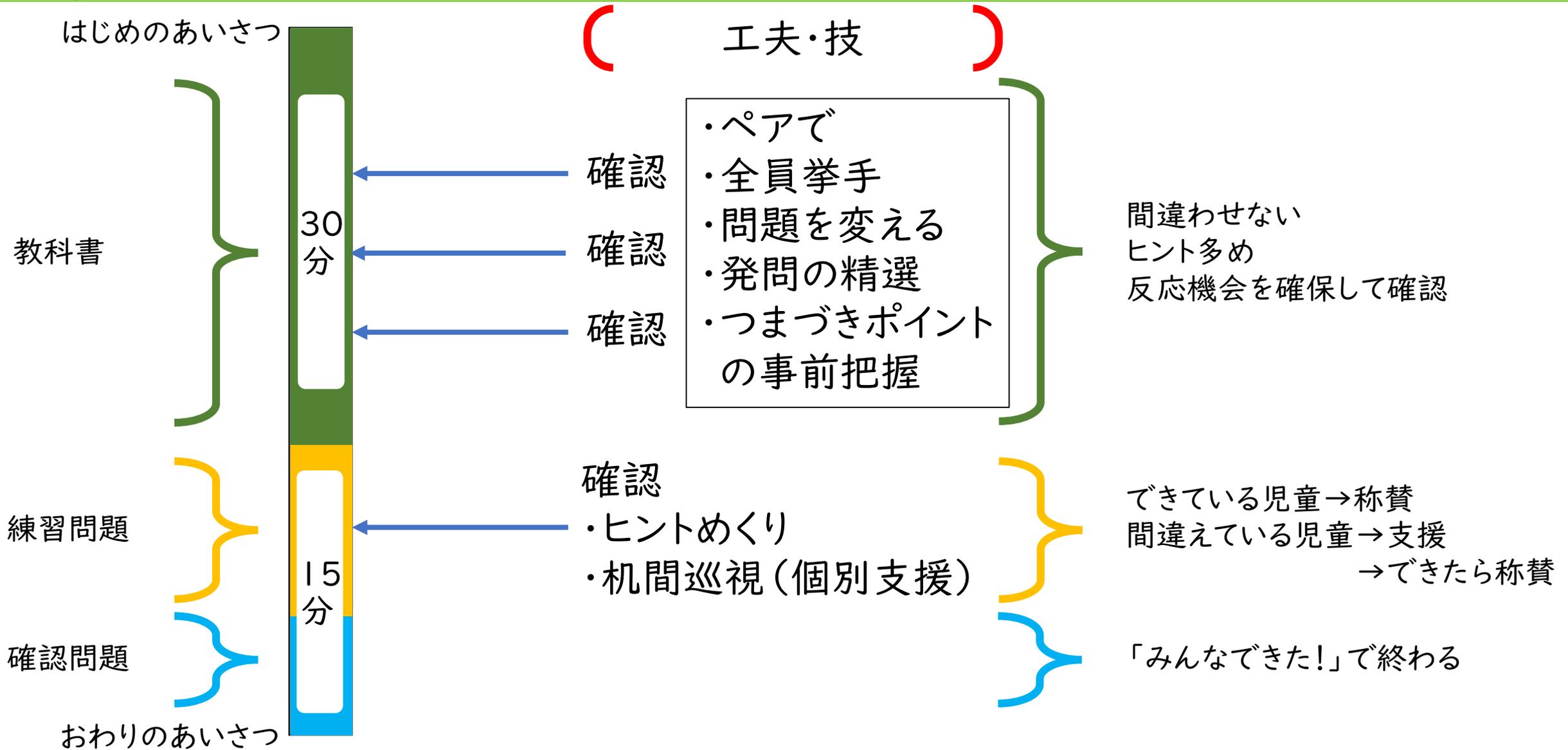
- 「AかBか?」のような形式で問うとどちらかに全員が手を挙げるができる。

<改善策>

- ペアで確認
- 全員挙手
- 机間巡視の仕方

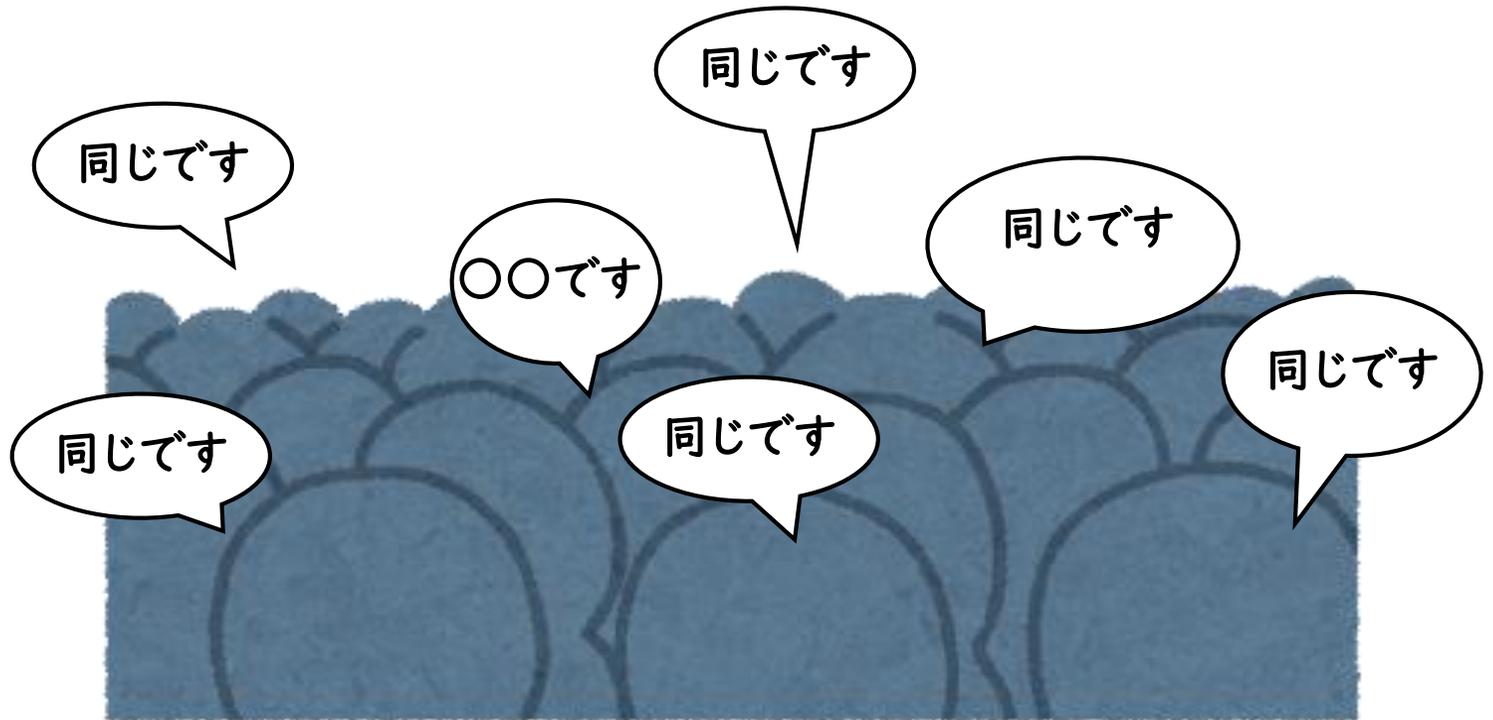
改善③

助言を受けて



助言を受けて

本当に「同じ」と
思っていたのかなあ
本当かどうかは
わからないなあ



助言を受けて

- 細かく動かして確認（全員挙手）
 - 全員手を挙げる問い方をすると、全員が必ず手を挙げられる。



工夫①

ペアで確認

■ 細かく動かして確認（ペアで確認）



- 全ての児童が主体的に授業に参加
- 途中で間違えている児童は正解がわかる（確認できる）
- 発表にもつながる

工夫②

机間巡視（1項目）

■ 練習問題（机間巡視）

できている
できている
間違えている
できている



1巡目は
「できている」
「間違えている」
の確認

工夫②

机間巡視（2順目）

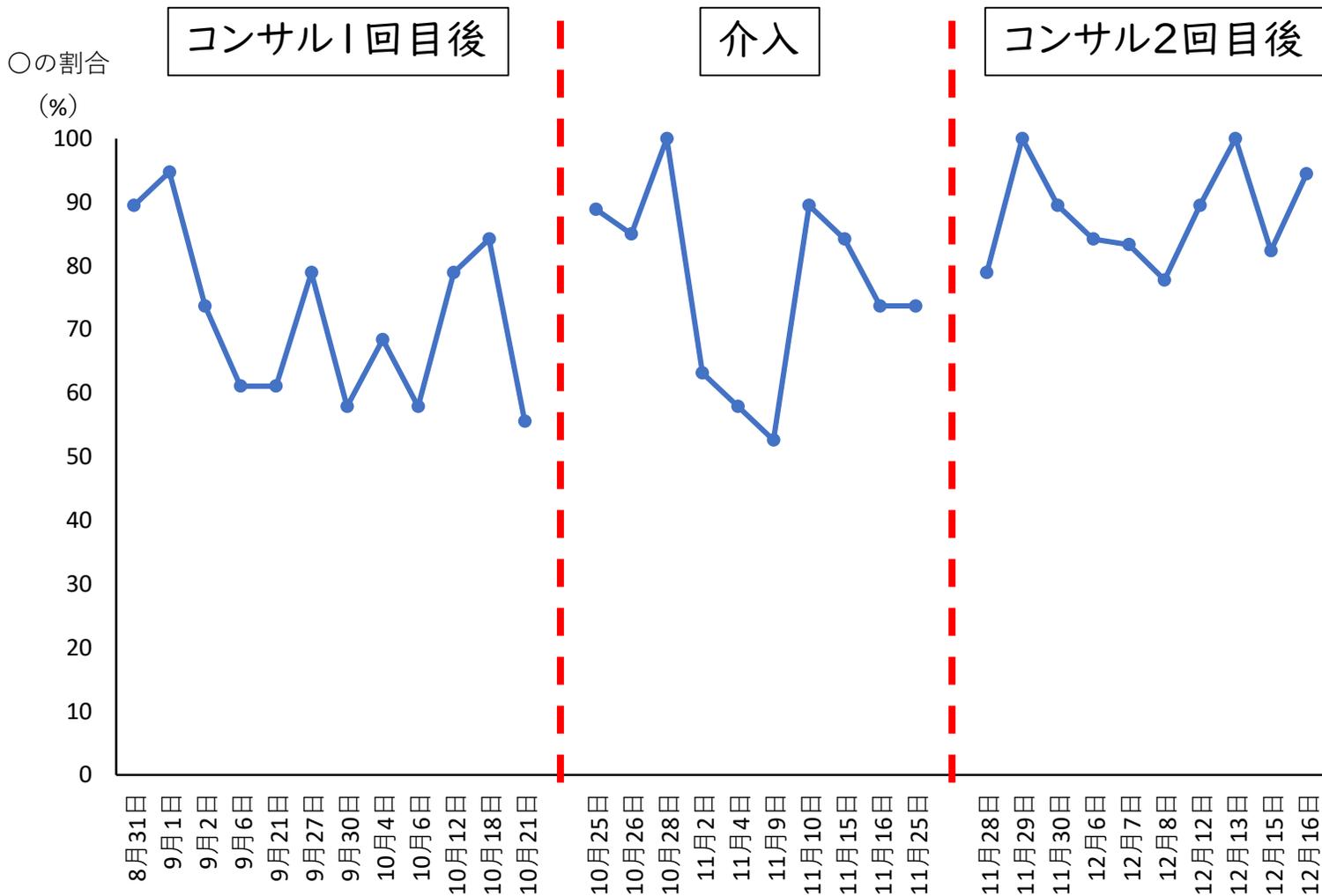
■ 練習問題（机間巡視）

ここ違うよ
こうすれば大丈夫だよ



2巡目は
支援の少ない
順番に
支援していく

結果



■ 成果

- 約9割程度の児童が安定して○がつくようになった。
- どの單元においても、理解を揃えることができるようになった。
- 児童が主体的に授業に参加できるようになった。
- 笑顔が多く見られるようになった。

成功のポイント

- ✓ 確認問題を行うことで自分の授業の振り返りや、次時への授業改善につなげることができた。
- ✓ ジャンプ問題への対応をすることで、ほとんどの児童が「わかった」「できた」で授業を終えられるようになった。
- ✓ 練習時間を確保することで、理解を深め、「わかったと思う」から「できる」に繋げることができた。
- ✓ 授業が安定することによって、学級のトラブルが減った。また、細かく児童を動かしたり、反応させたりすることで、授業の進度がそろいやすくなった。



今後の課題

- ✓ 他教科にも確認問題の方法を取り入れる。
- ✓ ケアレスミスをしてしまう児童もいるので、授業中における手立てや技を増やしていきたい。
- ✓ 初めは慣れずに教材準備に時間がかかっていたので、要領よく準備できるようにしていきたい。

